

新NISAは3年目に突入 2027年から「こどもNISA」がスタート

● 新NISAの利用者は2400万人以上

2024年1月から開始され、2026年に3年目に突入した新NISA。その導入の背景をあらためて見てみましょう。

日本の家計金融資産は、欧米の先進諸国と比べても、長らく預貯金に偏ってきました。2002年から20年間で家計金融資産が何倍に増えたかを比べると、米国は3.3倍、英国は2.3倍に対し、日本は1.4倍にとどまっています。株式や投資信託など、リスク資産への投資比率が低いことが、この差の一因と考えられます。一方で、少子高齢化が進み、社会保障だけでは国民一人一人の老後を支えるには限界が見え始めています。こうした背景から、**政府はNISA制度を拡充し、自ら資産形成することを後押ししています。**

旧NISAは時限措置として実施され、非課税期間に期限がありました。また、「一般NISA」と「つみたてNISA」の2つに分かれ、併用はできませんでした。一方、新NISAでは制度が恒久化され、**非課税期間は無期限**に。「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の2つを併用できるようになっています。さらに、**非課税投資枠も拡大**され、これから投資を始める人だけでなく、既存のNISAユーザーにとっても満足度の高い制度へと進化しました。

おかげで、新NISAは利用者が一気に増え、約2400万人にも達しています。さらに、2027年から0～17歳世代にも「こどもNISA」という形で利用できるようになります（詳しくはP.70～）。まだ、始めていない人にも、もっと上手にNISAを利用したい人にもNISA利用法を詳しく紹介していきます。

● 新NISAはどんな制度？

改正された新NISAは誰にとっても使いやすい制度へ

つみたて投資枠
長期間、手間をかけず
コツコツ運用したい人に

成長投資枠
積極的に資産を
増やしたい人に



	つみたて投資枠	成長投資枠
年間投資枠	120万円	240万円
非課税となる保有期間	無期限化	無期限化
非課税となる最大投資枠(総枠)	1800万円 (投入資金の総額 1800万円までしか投資できない。 売却をすると翌年からその分の枠が復活) <small>* 簿価残高方式で管理</small>	うち 1200万円
投資対象商品	長期の積立・分散投資に適した一定の投資信託・ETF	上場株式・投資信託・ETF・REIT など <small>* 次の①～⑤を除外 ① 整理・監視銘柄 ② 信託期間 20年未満の投資信託 ③ 高レバレッジ型などの投資信託 ④ 毎月分配型の投資信託 ⑤ その他条件に合致しないもの</small>
買付方法	積立	一括・積立
対象年齢	18歳以上 <small>*2027年から0～17歳向けに「子どもNISA」スタート (詳しくはP.70)</small>	

出典：金融庁ホームページをもとに作成

まとめ

- 旧NISAの内容を抜本的に拡充したのが新NISA
- 新NISAでは制度が恒久化、非課税期間も無期限化

NISA初心者なら 「株式型インデックス投信」で始める

● NISAでの長期積立投資なら、株式型での積極運用が◎

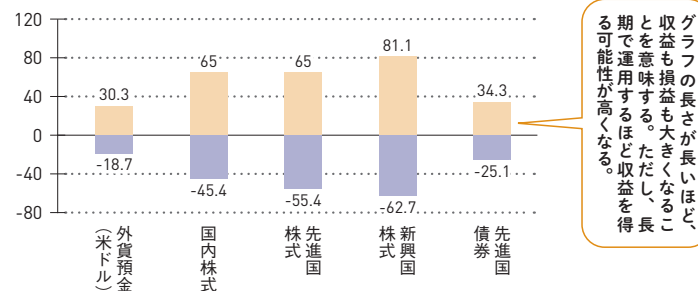
NISA初心者が、つみたて投資枠で積立投資を始める際には、**基本的には債券型よりも株式型の投資信託を選ぶことをおすすめ**します。特に運用期間が最低10年以上確保できる場合は、リターンの大きい外国株式型による積極運用で資産をどんどん増やしていきたいところです。

NISA初心者の中には、株式型のリスク面を怖がる人もいるかもしれません。たしかに、株式は債券と比べると値動きが大きく、大きな値下がり局面が訪れることもあるかもしれません。しかし、毎月同じ金額を積み立てることで「**ドル・コスト平均法**」が働き、**投資期間が長期になればなるほどリスクは平準化**されます。また、投資信託の場合、幅広い地域に分散投資することで、**投資対象**を分散することもできます。そのため、過度に怖がる必要はありません。

長期的にみれば世界経済は右肩上がりで成長しています。その前提に立って長期運用すれば、経済成長の恩恵を受けることができます。実際に、2008年のリーマン・ショックで株価は大暴落しましたが、その5年後には暴落前の水準まで回復し、その後それを上回る価格まで上昇しています。

また、長期投資では手数料を低く抑えることが大前提となります。特に保有中ずっと払い続ける信託報酬は、将来の資産額に大きな影響を与えることから、信託報酬の高いアクティブ型は基本的にはおすすめできません。そのため、**株式型インデックス投信が、新NISA初心者が選ぶべき商品の最適解**といえるでしょう。

● 1年間の投資収益の比較



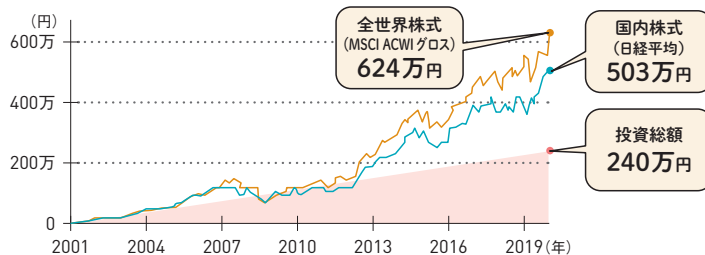
グラフの長さが長いほど、収益も損益も大きくなることを意味する。ただし、長期で運用するほど収益を得る可能性が高くなる。

* 期間:1996年1月~2016年1月(20年間)のデータをもとに作成
 * 月末時点で各資産へ1年間投資した場合の最大上昇率・最大下落率を表示
 * 外貨預金(米ドル)=FF金利、国内株式=TOPIX(配当込)、先進国株式=MSCIコクサイ・インデックス(配当込、円ベース)、新興国株式=MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込、円ベース)、先進国債券=シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
 * 円ベース=各インデックス(米ドルベース)×TTM

出典：SBI グローバルアセットマネジメント資料をもとに作成

● 長期・積立・分散投資の効果(株式)

■ 20年間毎月1万円投資した場合



出典：Bloombergをもとに金融庁作成（期間2001年1月~2019年12月）

まとめ

- 長期積立投資の場合、株式型のリスクを怖がりすぎる必要はない
- 長期投資には、信託報酬の低いインデックス型がよい

こどもNISAを利用して、子どもと投資を学ぶのも楽しい

● 祖父母に頼んで、お年玉6万円を積み立てへ

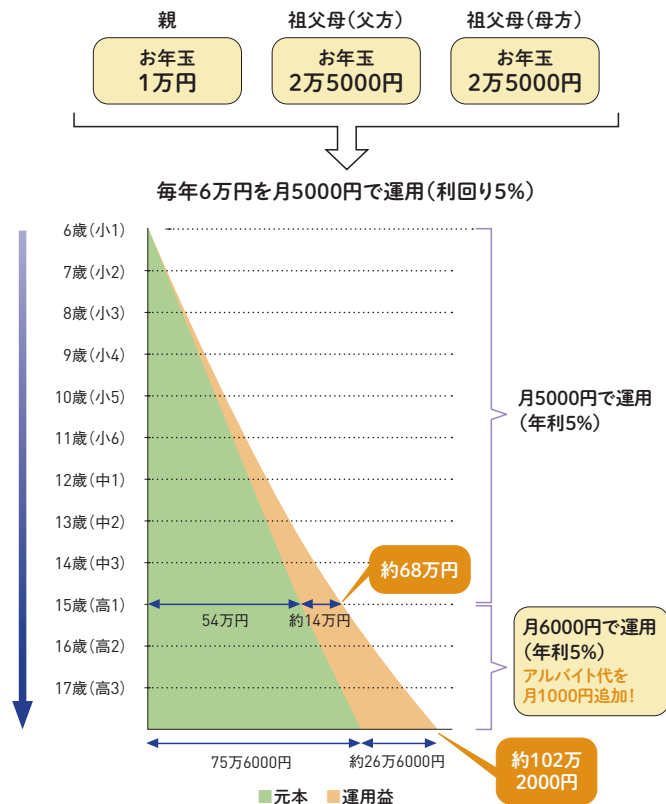
お子さんがいらっしゃる方は、子どもがもらったお年玉をどうされているのでしょうか？ 多くの人は、子どもには渡さず、子ども名義の預金通帳に貯めているのではないのでしょうか？

小学生以上のお子さんがいらっしゃる方なら、お子さんと一緒にこどもNISAを楽しんでみてはいかがでしょうか。まずは本人名義の口座をつくることを認識してもらいます。申込書を本人に書かせる、あるいは一緒にいる時に本人の前で親が書くなどの方法で、**自分名義の口座を開いて投資を始める**、ということを知ってもらいます。そのうえ、**もらったお年玉を1月に入金。たとえば6万円だとしたら、月々5000円ずつ、自分のお金から積み立てる**ことができます。

お年玉で6万円をもらうのは、ちょっと高額です。そこで、親がんばって1万円を。残りの5万円を両方の祖父母から2万5000円ずつもらえるように、交渉してはどうでしょう。よく、祖父母からの生前贈与の非課税枠は年間110万円だから、年間60万円のこどもNISAの枠なら、祖父母の生前贈与で楽々埋まるといった話もあります。

もちろん、そんなに裕福な祖父母ばかりとは限りません。それでも、孫1人につき、2万5000円をなんとかお願いするのは、できない話ではないかと思います。高校生くらいになれば、自分でアルバイトを始めて、自分のお金で運用するかもしれません。**半年に一度でも資産の値動きと一緒に見ることで、子どもは活きた経済の勉強ができる**はずです。

● こどもNISAで「投資のお勉強」



コツコツ
お年玉を積み立てて
お金を貯めて増やすことが
大事なことがわかったよ!

まとめ

- こどもNISAを利用して、子どもと一緒に投資の勉強をする
- 資金源はお年玉。親が準備できなければ、祖父母にお願いしてみる

成長投資枠はどのように使うのがよい？

攻めの運用もコツコツ運用もできる成長投資枠

まず、積立投資でコツコツと資産運用をしたい人は、右ページのケース1のように、つみたて投資枠と同じ投資信託を積み立てていく方法があります。つみたて投資枠は、投資上限額が年120万円のため、月10万円以上積み立てたい場合には投資枠をオーバーしてしまいます。そこで、足りない部分を成長投資枠で補うというわけです。**つみたて投資枠の対象投資信託は、すべて成長投資枠でも購入可能**です。成長投資枠は一括も積み立ててもできますから、成長投資枠も活用することで、投信を月5万円プラスして積み立てることが可能になります。

次に、値上がり期待できる商品で積極的に運用したいと考える人は、ケース2のように、つみたて投資枠では購入できない商品を購入する方法があります。**成長投資枠では、長期運用に適さない商品が一部除外されているものの、広範囲の商品を購入できます**。たとえば、つみたて投資枠ではインデックス型の投資信託で手堅い運用をしながら、成長投資枠では攻めの姿勢でアクティブ型の投資信託で運用するといった活用が考えられます。

最後に、**株式投資に挑戦したいという人は、ケース3のように成長投資枠で個別株を購入することもできます**。

あらためて確認しておきたいのが、ケース1、2のように、成長投資枠でも積立投資が可能だという点です。成長投資枠では一括投資（スポット購入）しかできないと勘違いしている人も少なくありません。使い次第で、攻めの資産運用も安定の積立投資も行えるのが成長投資枠の特徴です。

成長投資枠はどのような使い方がある？

ケース1 積立タイプ1

同じ銘柄の投信積立を月15万円以上したい



同じ銘柄でいいけど つみたて投資枠 だけじゃ足りない

つみたて投資枠	10万円
+	
成長投資枠	5万円
+	
全世界株式型インデックス投信	5万円

ケース2 積立タイプ2

つみたて投資枠で購入できない投信積立をしたい



攻めの投信積立をしたい

つみたて投資枠	5万円
+	
成長投資枠	3万円
+	
全世界株式型インデックス投信	5万円
+	
米国ハイテク株式アクティブ投信	3万円

ケース3 一括タイプ

成長投資枠で株式投資をしたい



個別株に挑戦したい

つみたて投資枠	5万円
+	
成長投資枠	10万~20万円
+	
国内株式	10万~20万円

まとめ

- 上場株式やアクティブ型など、リスクのある投資に挑戦できる
- 積立設定ができ、つみたて投資枠と同じ商品で運用もできる
- コツコツ運用と高リスク運用の併用も可能

NISA生涯投資枠1800万円をはるかに超えるiDeCoの投資枠

● 運用元本は3.2倍、資産総額は3.5倍に

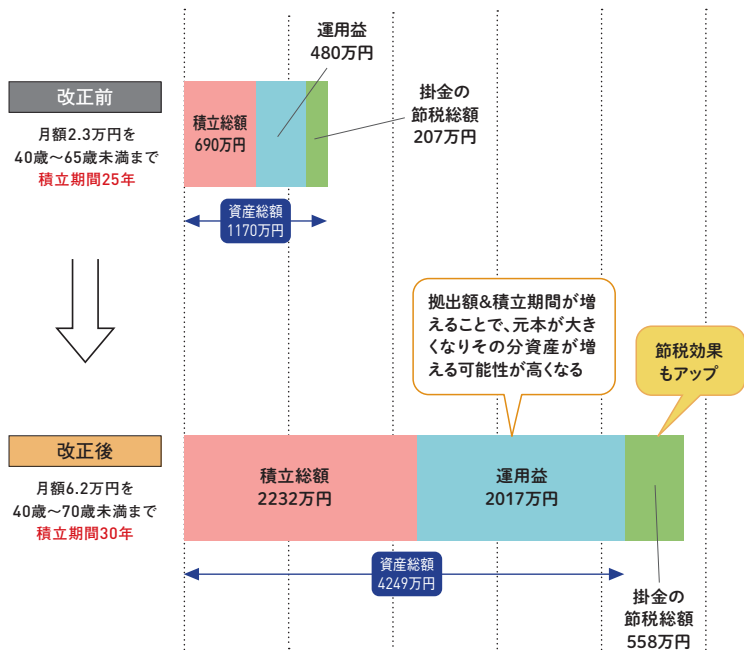
iDeCoの拠出額アップの制度改定を見て、はたと気づく方もいらっしゃるかもしれませんが、**NISAには生涯投資枠**というものがあります。年間投資枠こそ、つみたて投資枠年120万円と成長投資枠年240万円を合計して360万円と大きな金額ですが、生涯投資枠が設定されており、1800万円以上の投資はできません。

これに対して、iDeCoは会社員の場合、年間投資枠は6.2万円×12カ月で74.4万円とNISAにはかないませんが、これを10年間続ければ744万円、30年続ければ2232万円とNISAをはるかに超える投資額を実現できることとなります。極端に言えば、20歳から70歳まで50年間、会社員の年間投資枠74.4万円を投資しつづけると、投資元本は、3720万円です。ある意味、**上限なしの非課税投資制度**となっていることがわかります。

右ページの図は、もう少し現実的に40歳からiDeCo投資をスタートした場合の試算です。今までは、年間27.6万円、期間も65歳になるまでしか投資できませんでした。結果、投資元本690万円、運用益(利回り3%) 約335万円と25年間で1025万円しか運用できませんでした。対して、今後は**40歳から70歳になるまで投資期間が30年に伸びる**うえ、投資元本も上限まで投資すれば、2232万円と運用元本だけで、3.2倍です。もちろん運用収益も増えて、約1380万円となり、合計で3612万円の資産をつくることができます。これなら、老後資金として、かなり安心な金額といえるでしょう。60歳まで受け取れないデメリットはあるものの、威力は抜群に大きくなったのです。

● 加入年齢引き上げ&拠出上限アップでどのくらい増える？

たとえば…年収500万円・企業年金なしの会社員の人が
40歳から加入年齢&拠出上限まで積み立てた場合の比較(想定利回り:年4%)



*掛金の税率は所得税20%・住民税10%で試算

- まとめ
- NISAの生涯投資枠1800万円をはるかに超える投資額を実現できる
 - 拠出額が増え、拠出期間も長くなったことで、運用総額は大きく増額